

1 本校教育目標

『 夢を抱き、信頼し、笑顔あふれる学校 ～ S T A R 西泊！ ～ 』

[重点目標及び学習面の実践事項]

(1) 心身ともに健やかでたくましく、互いを認め合える人間関係を構築させる。

- ① 基本的生活習慣の確立
- ② 豊かな心の育成
- ③ 望ましい人間関係の醸成

(2) 基礎・基本の学力の定着と確かな学力の向上を図る。

- ① 基礎学力の定着
- ② 生徒指導及び特別支援教育の充実
- ③ キャリア教育の推進

2 本校の実態

- (1) 学校評価では「生徒は学習内容を身に付けようと努力している」「生徒は自ら考え計画的に家庭学習に取り組む習慣が身についている」の項目が生徒は高いが、保護者と教師は低い評価となっている。
- (2) 昨年度までの国のリーディング DX スクール事業の研究指定の成果を活用しながら、デジタルとアナログのベストミックスを目指す。また、授業と家庭学習のつながりを意識しながら、学力の向上を目指す。

3 校内研修主題と学力向上プラン

(1) 校内研修主題

「 主体的に学び、確かな学力を身に付けた生徒の育成 」
～ 授業と家庭学習のつながりを意識して ～

(2) 共通実践

- ① 授業と家庭学習のつながりを意識した授業改善、学力向上
- ② デジタルツールとアナログツールのベストミックスを意識した授業と家庭学習
- ③ 年3回の公開授業と授業研究会の実施
- ④ 家庭学習の習慣化と質の向上につながる方法や教材の工夫
- ⑤ クロームブックの持ち帰りによる家庭学習の充実と授業との連携
- ⑥ 別室、不登校生徒等に対する学習支援（リモート授業・体制構築）
- ⑦ デジタル教科書、AIドリル、クラスルーム等の効果的な活用方法の検討と実践

(3) 学校重点目標

- ① 家庭学習の時間の量的確保と内容の質の向上を目指し、家庭学習0時間をなくす。
- ② 定期的に校内研修を実施し、授業での実践や生徒の家庭学習、授業での様子を交流する。

(4) 学力向上プラン

学力向上①

授業と家庭学習のつながりを意識した授業改善

- 生徒が主体的に学習に取り組むことを目指した授業改善
- 本時で達成されるべき目標を明らかにする（学習指導要領に沿って）
- めあてを提示する（生徒が「学びたい」と思う魅力あるめあてに！できれば生徒の言葉で）
- 本時のまとめと振り返りを行う（目標、めあてとの整合性！）
- 生徒会（学習部）との連携（家庭学習の取組強化の推進、課題の提出率や質の向上）
- 本時の内容の教授・学習・練習・作業・班活動等を組み合わせた授業構成に取り組む
- 生徒の達成状況に応じた課題を与える

学力向上②

デジタルツールとアナログツールのベストミックスを意識した授業と家庭学習

- AI 型ドリルと紙のそれぞれの特長を生かした教材や家庭学習課題の準備
- 土日、長期休業中に AI 型ドリルの活用を推進
- 教科の特質や学習内容に応じたデジタルツールとアナログツールの使い分け

教師の指導力向上

- 「あじさいスタンダード」及び「ゆめあこ」の活用
- 小学校との連携
- ICT 活用研修の実施
- 校内研修の充実（実践の共有）
- 全員参観型研究授業の実施

4 全国、県学力調査等の分析による今後の課題と改善策

	全国平均に比べ正答率が低かった問題	改 善 策
国語	「資料等から読み取ったこと」や「文章の構成や展開を理解したこと」を基に、考えや根拠を明確にしながら記述したり、与えられた条件に沿って記述したりする問題については、正答率が低く、無回答率も高い結果となった。また、登場人物の心情の変化が分かる行動を抜き出す問題の正答率も低かった。	授業の中で、音読や資料の見方を重点に置いた指導を行い、文章の内容や資料等を正確に読み取る力を身に付けさせ、読み取ったことを基に自分の考えを書く活動に取り組ませる。 登場人物の心情理解のために、言動に着目しながら読むことに重点を置いた指導を行う。
数学	「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題」「数学用語を用いて説明する力が求められる問題」において、正答率が低く、無回答率が高い結果となった。 語句の意味を理解し解法を説明する力や、既習の基本的な内容を具体的な場面で活用する力が求められる問題において、課題が見られた。	ペア学習、グループ学習を通して教え合い活動を充実させ、基礎・基本の定着を図る。また課題に取り組む中で、根拠をもって説明できるよう指導していく。数学用語は、授業の中で繰り返し復習し、言葉の意味を定着させる。 授業中に基本的な計算の解き方（特に分数）を繰り返し確認し、キュービナなどを活用して定着をはかっていく。
英語	語順を整理して英文を書く問題の正解率が低かった。特に、意見文の要点を把握し、自身の考えと理由を記述する問題や、コミュニケーションの目的に応じて表現を使い分ける問題に大きな課題が見られた。	意見文の問題は、要点の把握と論理的な文章構成力が必要となる。日頃から、筆者の主張と根拠を分析して読み、自分の考えを客観的に整理、表現する意識を持たせる。表現の問題は、具体的な状況を想定し、「誰に何のために」話すのかを意識しながら練習させる。
理科	「化学反応を化学式やモデルを使って表現する問題（化学反応式）」や「現象や情報から分析し、判断する問題」の正答率が低かった。また、知識を活用・応用する問題で課題が見られた。	授業で学んだ科学的知識を多面的・多角的な見方で実生活とつなげる取組を増やす。また、観察、実験結果の情報を、知識を活用して正しく分析、表現できる力を実験レポート等で身に付けさせる。